

## 鈴木信男先生を偲ぶ

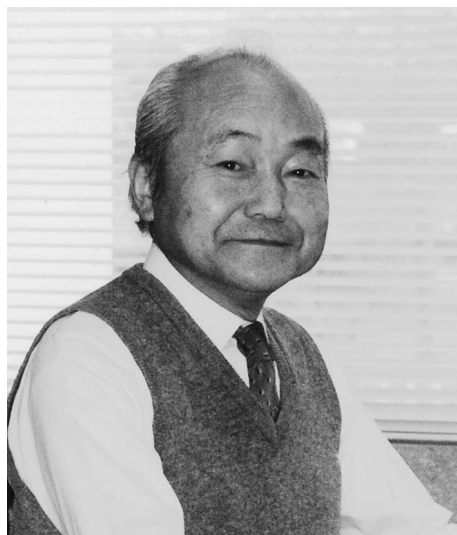
1930年仙台市に生まれる。旧制第二高等学校より、学制改革により新制度となった東北大学理学部化学科を1953年に卒業。大学院に進学し、1958年理学博士、直ちに東北大学理学部助手。1961年同学選鉱製錬研究所助教授。1970年東北大学教授（理学部化学科分析化学講座担当）。1993年定年により東北大学を退職、東北大学名誉教授。1995年石巻専修大学教授に就任、2001年任期満了にて退職。この間、1980年日本分析化学会学会賞、1985年ヘベシー国際学術賞を受賞。1981、1982年日本分析化学会東北支部長、1985年日本分析化学会副会長、1991年日本化学会東北支部長、1994年日本分析化学会会長。日本分析化学会名誉会員。

本会名誉会員鈴木信男先生には去る7月3日に87歳2月余の天寿を全うされました。以前に倒れられ、歩行不自由なご様子でしたが、頭脳は極めて明晰で、お会いするごとに新しい話題を楽しんでおられました。この1、2年、肺炎の発症などが度重なりましたが、その都度、これを克服してこられました。しかし、残念ながら、今回は叶わぬこととなりました。奥様からお電話をいただいた時は、まだまだ長生きされると信じていただけに本当に驚きました。7月6日、ご葬儀が執り行われ、ご学友や門下生が多数参列してご冥福をお祈りいたしました。

先生の研究活動は、東北大学理学部化学科箱守新一郎教授のご指導のもと、放射性同位体を用いて、自ら水耕栽培した稲など生体中の微量元素の分布を調べることから始めておられます。一連の研究成果を「放射性同位体元素を用いるこん跡生元素の分析化学的研究」と題する学位論文にまとめられました。同学科放射化学講座の助手に就かれた後も、放射分析化学の研究をさらに深められました。この間、不足当量の抽出試薬を用いて目的元素の一部を分離し放射能測定するだけで定量できる画期的方法を考案されました。後年、海外で活発な追試研究が展開され、不足当量法（Substoichiometry）あるいは不足当量同位体希釈法として、高く評価されています。

東北大学選鉱製錬研究所助教授時代は、溶媒抽出における溶媒の影響に関心を向けられました。膨大な数の多種多様な有機溶媒を用いた抽出実験の結果を比較し、溶媒の効果について正則溶液の理論によった定量的解釈を確立され、溶媒抽出化学に大きな刺激を与えました。

東北大学理学部教授に就任されてからは、化学科分析化学講座を率いて教育・研究、および学会活動にご尽力されました。先生は、旧帝国大学理学部で最初に置かれた分析化学講座であるという歴史的背景と責任を相当に強く意識され、分離と分析に関わる分析化学の本質の解明を目指されたようです。実際に展開された研究の柱は、化学分離法における溶媒の役割の解明と生物地球化学的試料を対象とする超微量分析の二つでした。前者では、金属錯体を共通の溶質として、液-液分配系と液体クロマトグラフィーでの挙動、および関連する溶液化学が研究され、世界に先駆けて諸定数や図表を収集した溶



媒抽出データベース SEDATA が構築されました。後者では、粒子線加速器や原子炉による放射化法を用いて各種生物地球化学的試料中微量元素の量的関係が調べられました。

この間に、先生は、「金属錯体の分配に対する溶媒効果の研究」の業績について1980年度の本会学会賞を、また、1985年には不足当量法の発明など放射分析化学での業績に対して、日本人初となるヘベシー国際学術賞を受賞されました。

先生は、実験を重視され、「化学の進歩によって、将来、解釈は変わり得るが、実験データは残り続ける。実験温度や試薬の純度等に注意したデータを」が口癖で、研究に対する姿勢は、極めて厳しいものでした。研究室の学生のうち叱咤された経験を持たない者は珍しいほどでした。一方、研究を離れたところでは、音楽を口ずさみ、共に飲む場を楽しまれた先生でした。このような中で、延べ160人超の学生、院生、研究生が鍛えられ、大学や企業などに送り出されました。

先生は、大学での教育・研究に加えて、本会会長や、日本化学会東北支部長、トレースアナリシス国際シンポジウム組織委員長などの重責を果たされ、海外の研究者からも大いに信頼され厚い友情を培われたようです。

先生は、東北人特有の「諦めることなく、これでもか、これでもかと、じっくりと物事に取り組む」タイプで、自らを売り込むことなく、終始控えていることをご自身の美学としておられました。プライベートなことは、ほとんど口にされなかったのですが、内外に知られた現代詩人である奥様のご活躍について嬉しそうに話されたときのお顔は忘れられません。（ペンネーム梢るり子、日仏友好160周年記念ジャポニズム開催記念日仏文学貢献作家グランプリ受賞、2016年。）

鈴木先生には長い間、多大なご指導を賜りました。心から感謝申し上げます。どうぞ安らかにお眠り下さい。

〔東北大学名誉教授 斎藤紘一〕